

逢ひ見ての のちの心に くらぶれば 昔はものを 思はざりけり

[現代語訳]

あなたと逢って恋をしてからの苦しい心に比べれば、昔は何も思い悩むことなどなかったのですね。

君がため 惜しからざりし 命さへ 長くもがなと 思ひけるかな

[現代語訳]

あなたのためなら惜しくないと思っていた命さえ、今はできるだけ長くありたいと思うようになりました。

世の中よ 道こそなけれ 思ひ入る 山の奥にも 鹿ぞ鳴くなる

[現代語訳]

この世の中には、悩みから逃れる道などないのですね。思い詰めて入った山の奥でさえ、鹿が悲しげに鳴いているのですから。

春過ぎて 夏来にけらし 白妙の 衣干すてふ 天の香具山

[現代語訳]

春が過ぎて夏が来たらしい。天の香具山に真っ白な衣が干してあるというから。

久方の 光のどけき 春の日に しづ心なく 花の散るらむ

[現代語訳]

日の光がのどかに照る春の日に、どうして桜の花は落ち着きなく散ってしまうのだろう。